

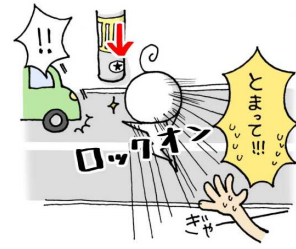
## 課題になっている行動 (気になる行動)

見えているもの引っ張られ  
安全を確認しないで  
道に飛び出してしまう

と

今はそれしか  
見えません

「とまれっ」と言われても



監修・文 水野敦之 絵：宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 様々な状況の変化 地域の中では変化が多い</li> <li>■ 影響を与える刺激や情報 本人の興味のある見えているものや情報 本人の注目にあわない刺激の多いルートになっている</li> <li>■ 必要な支援がない 刺激の統制の支援がない 活動を明確に提示されていない</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受容コミュニケーションの特性：指示が理解できない</li> <li>■ <u>全体よりも細部に注目する特性：見えているものに強く注目する特性。転導性。衝動性</u></li> <li>■ <u>時間の整理統合の困難さ：見通しをもった行動が難しい</u></li> <li>■ <u>空間の整理統合の困難さ：見通しをもって安全な位置を保持できない</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 習慣になっているものがある 習慣化された転導的な行動、衝動的な行動</li> <li>■ 自分流の気づき・考え方をもつ 注目すると引っ張られてしまう</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 過去に経験したこと学んだこと</p> <p><input type="checkbox"/> 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行動前の状況※ 刺激・情報がある 刺激の統制、本人にあった明確な指示がない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行動後の状況・結果※ 支援者が止める 支援者が追っかけてくる 注意される (意味はわからない)</li> </ul>

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
移動支援を活用している 移動ルートは調整できる	絵や写真、具体物の理解がある 見えなくなったら終わりの理解	見通しがあれば移動先は楽しみにしている

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・刺激の少ない移動ルートにする	・写真のスケジュールで見通しを伝える ・本人が気にしそうな情報の方向に支援者の位置を調整する	・本人が目的以外の部分に注目したときに写真のスケジュールで確認して促す。

### 解説と支援の方向性について

このようなヒヤっとする場面は多くの親御さん、支援者が経験されています。1つの部分に注目すると、周囲に気をとめることが難しい場合があります。自閉症の人は、全体よりも細部を強く注目することで、刺激・情報に強く反応して、引っ張られてしまうことがあります。活動以外の刺激が無視できるように刺激・情報を統制したり、現在の活動を明確に提示したりすることもあります。街の中で刺激を統制することに限界がありますが、事前にルートを考えたり、行く場所を選んだりすることが大切です。